

雪をまとった冬のシャルトル大聖堂
(写真提供：シャルトル市)

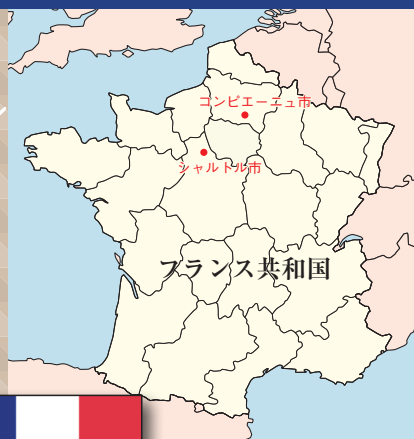


世界の地域から

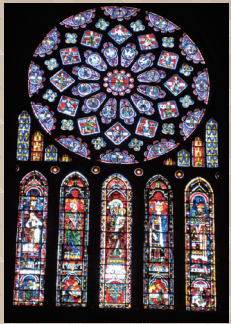
シャルトル市・コンピエーニュ市 (フランス共和国)

シャルトル市

シャルトル市【奈良県桜井市の姉妹自治体】は、パリの南西約80km (列車で約1時間) に位置する歴史ある都市です。市の中央部にあるシャルトル大聖堂は、ゴシック建築の傑作として広く知られており、1979年にユネスコの世界遺産に登録されています。パリの北東約80km (列車で約40分) に位置するコンピエーニュ市【福島県白河市の姉妹自治体】と共に、2012年8月に開催予定の第3回日仏自治体交流会議の会場となります。いずれの街もパリから日帰りでも充分楽しめます。



大聖堂北正面中央扉口の
タンパン「聖母戴冠」



大聖堂の北のバラ窓

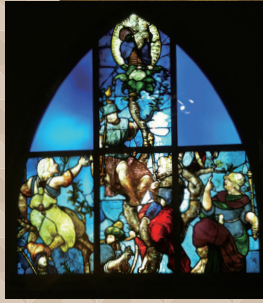


光の祭典時のシャルトル大聖堂
(祭典は市内28か所で4月から9月まで毎晩開催)

Credit photo:François Delauney — Scénographie:Xavier de Richemont



シャルトル市庁舎



大聖堂内のステンドグラス
「シャルトルブルー」と呼ばれる美しい青



ウール川河畔の旧市街地

コンピエーニュ市

ナポレオンに愛されたコンピエーニュ市は、歴代フランス国王の狩猟地であり、ルイ16世とマリー・アントワネットの初対面の場所でもあります。ジャンヌ・ダルクが最後に捕らえられた地でもあり、第一次大戦の休戦条約、第二次大戦の対独停戦協定の締結の地にもなる等、フランス史上重要な役割を果たしてきました。



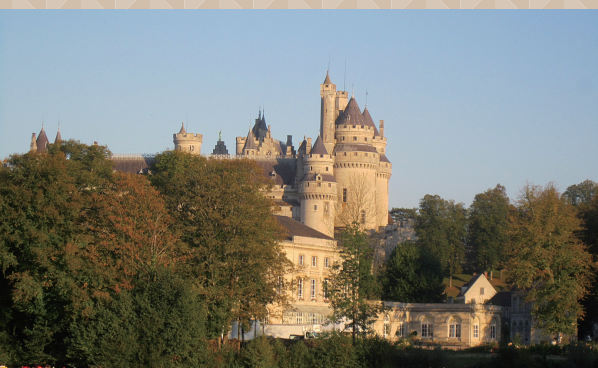
コンピエーニュ
宮殿内大広間



コンピエーニュ
宮殿の庭



ナポレオン1世の寝室と皇妃マリー・ルイーゼの寝室



ピエルフォルン城

コンピエーニュ宮殿の南東に位置する小高い丘に建つ要塞。14世紀後半に建てられ廃墟となっていた城を19世紀にナポレオン3世が修復させたものです。中世の原形をとどめた美しい城は、映画『ジャンヌ・ダルク』等のロケ地にもなっています。



コンピエーニュ北部を流れるオワーズ川



コンピエーニュ宮殿

マリー・アントワネットが自ら部屋の内装を決めたものの、ついに住むことはできなかったブルボン王朝最後の宮殿。フランス革命後、ナポレオン1世によって大規模な改修がなされました。宮殿内には「第二帝政博物館」と「交通博物館」があります。

ゴシック様式のコンピエーニュ市庁舎

